



環境省
エコアクション21
認証番号 0007357

DO!Maz

2025年度(2025/4/1~2026/3/31)

環境経営レポート



オイル流出訓練の様子(美原店)



北海道マツダ販売株式会社

2026年6月10日 発行

はじめに

私たちにもできることがあるはず—

「地球温暖化」は、いまや誰もが耳にする身近な課題です。近年、豪雨や台風の激甚化、猛暑日の増加など、気候の変化が各地で見られています。北海道においても、夏の気温上昇や降雪量の変動、オホーツク海の流氷の減少など、これまでとは異なる気候傾向が見られるようになってきました。これらの背景には、温室効果ガスの排出量増加が関係しているとされています。

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の評価報告書によると、世界の平均気温は産業革命前と比べて約1.1～1.3℃上昇しており、人間活動が主な要因であるとされています。今後も気温上昇や海面上昇、異常気象の頻発化などが予測されています。

こうした課題に対し、日本独自の環境マネジメントシステムであるエコアクション21は、環境省が策定した取り組みであり、CO2排出量の削減などを通じて環境保全を推進することを目的としています。

当社では、環境保全への貢献を目指し、2011年よりEA21に取り組んでおり、2025年で14年目を迎えました。引き続き持続可能な社会の実現に向けた活動を推進していきます。

目次

1. 北海道マツダについて
 - (1)概要
 - (2)北海道マツダの商品
 - (3)北海道マツダの店舗
 - (4)北海道マツダの仕事
2. 北海道マツダとエコアクション21
 - (1)エコアクション21とは
 - (2)実施体制
 - (3)環境経営方針
3. 今年度の目標
 - (1)環境経営目標
 - (2)環境経営計画
4. 今年度の実績と評価
5. 次年度の目標
 - (1)環境経営目標
 - (2)環境経営計画
6. 環境経営関連法規
 - (1)環境関連法規の遵守状況確認
 - (2)環境関連法規遵守要求事項
 - (3)違法・訴訟の有無
7. 代表者による全体評価

1. 北海道マツダについて

(1) 概要

北海道マツダ販売株式会社は、札幌トヨタ小型部を分離し、マツダ三輪トラックの販売権を得て昭和28年8月1日に設立されました。創業者の故 横井七之助の語録には”工場があるから買う”という言葉があり、全道各地で整備体制の充実を図り、お客様のあらゆるニーズにお応えしております。



昭和三〇年の本社建物 ←

現在は道内49 ※1 の営業拠店のほかに、板金塗装センターが2か所と中古車センターが1か所あり、全道をカバーする自動車販売ディーラーとして営業を継続しています。自動車リース・レンタル事業のマツダレンタリース北海道やロードサービス事業の北海道ロード・ヘルプのほか、メルセデスベンツを販売するシュテルン札幌、シュテルン高井戸や、白石中央自動車学園、鉄工団地自動車学園なども当社のグループ企業であり、”クルマ”の総合商社の北海道マツダは、お客様からは長きにわたり”道マツ”の愛称で親しまれております。



メルセデスベンツ札幌中央
(シュテルン札幌)



鉄工団地自動車学園



現在の本社建物

令和8年3月現在

所在地 北海道札幌市中央区北2条東1丁目1番地

代表 代表取締役社長 横井 隆

事業内容 1. マツダブランドの乗用車・商用車の新車販売
2. 中古自動車の販売
3. 部品・用品などの販売
4. 自動車整備業
5. 損害保険代理店及び自動車損害賠償責任保険代理店並びに生命保険募集業

事業規模 事業所 全60事業所
従業員 966名(内派遣・アルバイト48名)
年間売上高 342億円

※令和7年4月 函館地区6事業所が追加となりました。

(2) 北海道マツダの商品

北海道マツダは、マツダ株式会社の特約店販売契約を締結して、マツダの製品の販売と整備を行う会社です。取扱っている車種は右記となります。この中で一部を除く全車種に、独自の技術「SKYACTIV TECHNOLOGY」で開発されたエンジンを搭載しており、ガソリン車、ディーゼル車ともに優れた燃費性能を発揮しています。

MAZDA2	フレア
MAZDA3	フレアワゴン
CX-3	フレアクロスオーバー
CX-30	キャロル
CX-5	スクラムワゴン
CX-60	ほか商用車、福祉車両
CX-80	
MX-30	
ROADSTER	
ROADSTER RF	

(3) 北海道マツダの店舗

前述のとおり、北海道マツダは49の営業拠店全てに工場を併設しています。そのうち21店舗に板金塗装工場、17店舗に中型トラック用リフトを完備し、どんな車種にも高品質な対応ができるよう体制を整えています。店舗の建物にはマツダが全国的に展開を進めている「新世代店舗」のデザインも順次取り入れています。



札幌第一地区	札幌第二地区	道南地区	道東地区	道北地区
▶ 千歳店	▶ 琴似店	▶ 室蘭店	▶ 帯広店	▶ 旭川店
▶ 札幌店	▶ 札幌苗穂店	▶ 静内店	▶ 釧路店	▶ 北空知店
▶ 山鼻店	▶ 麻生店	▶ 苫小牧店	▶ 北見店	▶ 岩見沢店
▶ 清田店	▶ 発寒店	▶ 中道店※	▶ 根室店	▶ 名寄店
▶ 厚別店	▶ 西町店	▶ 函館店※	▶ 帯広幕別店	▶ 神居店
▶ 江別店	▶ 東苗穂店	▶ 苫小牧東店	▶ 中標津店	▶ 留萌店
▶ 豊平店	▶ 小樽店	▶ 北斗店※	▶ 清水店	▶ 稚内店
▶ 藻岩店	▶ 白石店	▶ 伊達店	▶ 網走店	▶ 東光店
▶ 東月寒店	▶ 手稲店	▶ 美原店※	▶ 厚岸店	▶ 美唄店
▶ 北広島店	▶ 余市店	▶ 森店※	▶ 本別店	

※道南地区5店舗は対象追加となります。また、士別店が閉鎖し、名寄店と合併いたしました。

(4) 北海道マツダの仕事

持続可能な社会を実現していくために、事業者は製品やサービスなどすべての事業活動の中に省エネルギー、省資源などの環境配慮を織り込むことが求められています。

北海道マツダの仕事は、お客様へ車両の販売と整備を通して、安心安全な理想のカーライフを実現することです。そのために行われる車両の整備のなかでも、お客様に最も身近な”タイヤ”、”エンジンオイル”の交換と廃棄の工程と環境配慮についてご紹介します。

タイヤ交換

タイヤは、自動車が走行する際に路面と接地し、方向やブレーキ、駆動力を伝える重要な働きをしています。



交換

工場でタイヤを交換します。

Point!

交換を怠ると、タイヤの残り溝が減り路面伝達が不足するため**危険**です。また、タイヤの空気圧が適正でない状態だと**燃費も低下**してしまいます。



回収依頼

交換したタイヤを工場に置き、すぐ回収手配をします。



回収

タイヤは破碎され、ゴム部、ラジアルワイヤー、ビート部に分かれます。



再利用

ワイヤーは専門の業者によって廃棄。そのほかはさらに粉碎され、本州で工場の燃料として再利用されます。



Point!

エコカーには、通常のタイヤよりも燃費が良い専用省燃費タイヤが装着されていることがあります。それを通常タイヤに取り替えてしまうと、本来の燃費性能が発揮されないことや適正空気圧に設定できないことがあるので注意が必要です。



エンジンオイル交換

エンジンオイルとは、名前の通りエンジンの動きに作用するオイル。エンジン内部の潤滑やエンジンを不純物から保護するなどの働きがあります。



交換

交換時期はエンジンの種類(ガソリン、ディーゼル等)や走行距離などによって変化するため、定期的にオイルの状態を確認することが大切です。

Point!

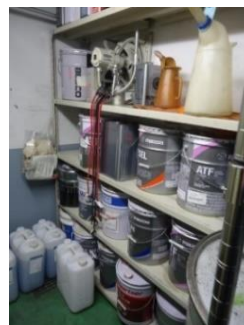
エンジンオイルは使用するにつれて劣化していきます。定期的に交換することでエンジンは長持ちし、燃費の悪化も防ぐことができます。



回収依頼

交換したオイルは、タイヤと同じように工場に置き、業者に回収手配をします。

こうして工場内の油類が増えていくと大規模な火災に繋がる危険があるので、消防法の定める基準に従い届出をして保管しています。



回収

処分業者に引き取り依頼をします。
このときの廃油やその他の産業廃棄物は、「マニフェスト管理台帳」に記録して排出量を管理しています。
(令和5年4月 全社電子マニフェストに移行)



再利用

その後、水分や不純物がろ過され鉱業用オイルとなり、製紙会社等の燃料として再利用されます。



Point!

低燃費エンジン搭載車やハイブリット車には、オイルの粘度を低くサラサラにする事により、エンジン負荷を減らして燃費を向上させる省燃費オイルが使用されています。しかし年式の古い車の場合、省燃費オイルに対応していない場合があるので交換時には注意が必要です。

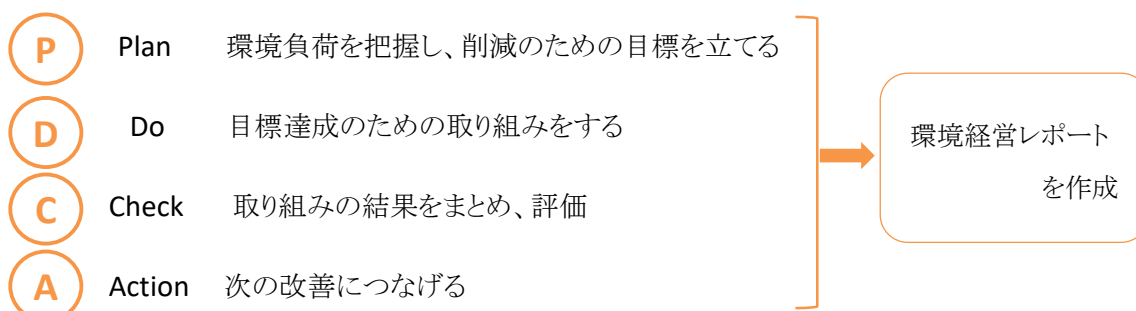
2. 北海道マツダとエコアクション21



(1) エコアクション21とは

北海道マツダは、さらに環境へ配慮した事業活動を行っていくために”エコアクション21”という活動に参加しています。エコアクション21とは、事業者の環境への取り組みを推進し、持続可能な経済社会の実現に貢献するために環境省が定めたシステムです。

環境への取り組みをより効果的にするためのガイドラインがあり、これに基づいて適切に取り組みを行うと、「認証・登録制度」によってエコアクション取り組み事業者の認証・登録を受けることができます。事業者はPDCAのサイクルを基本に取り組み、その内容をまとめた「環境経営レポート」を年に1度作成、提出しています。

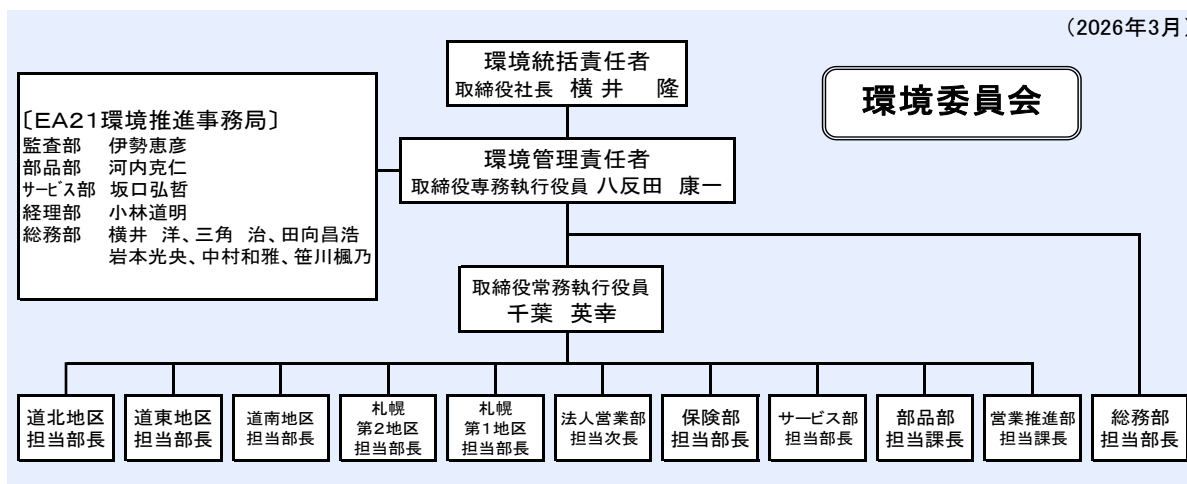


なお、エコアクション21の認証・登録範囲は、全事業所と全組織です。

(2) 実施体制

北海道マツダのEA21の実施体制は以下の表となります。

環境統括責任者(社長)、環境管理責任者(総務担当役員)のもと、EA21環境推進事務局が主な業務を担当し、各店、各部門の目標進捗フォローや取り組みをサポートします。また、定期的に環境委員会を開催し、全社的な取り組み状況を経営幹部と協議し、改善点などを情報共有し、修正を行うなど、全社的なPDCAサイクルになるよう取り組んでいます。



(3) 環境経営方針

EA21に取り組む目的を全社で共有するため、“環境経営方針”を定め、以下のように取り組んでいます。

I.基本理念

北海道マツダ販売株式会社は、地球環境保全が人類共通の最重要課題であることを認識し、自動車販売、自動車整備及び関連する事業活動を通じ、当社の事業活動のあらゆる分野で環境に配慮し、地域社会との調和を図り、地球環境保全活動に取り組みます。

II.行動指針

1. 当社は、環境経営マネジメントシステムに則り、環境目標・環境活動計画を定めて継続的な改善に努めます。
2. 当社の事業活動に関わる環境関連法規制及びその他の環境関連要求事項を遵守します。
3. 当社の事業活動に於いて環境に与える影響を削減する為、次の事項に対し優先的に取り組みます。
 - ① 電気使用量・燃料使用量・水使用量の削減
 - ② 廃棄物の削減とリサイクル排出の促進
 - ③ LED照明設備の順次導入
 - ④ 環境及び人体への負荷の大きい有機溶剤の使用を極力抑え、水性塗料の導入促進
4. 当社の事業活動での自動車販売・整備において、お客様に自動車の環境情報を積極的に提供し、エコカー・リサイクル商品等の販売促進と車両整備の促進を図り、持続性循環型社会の実現に貢献します。
5. 環境保全に関する啓蒙・啓発と、地域での社会貢献活動に努めます。

この環境方針は、当社の全従業員に周知徹底すると共に、社外にも開示します。

〔付則〕

制定 :平成 23年 1月 5日

改訂 :令和 7年 11月 28日

平成 7年 11月 28日

北海道マツダ販売株式会社

取締役社長 **横井 隆**

3. 今年度の目標

(1) 環境経営目標

EA21では、事業活動における”環境負荷低減”を環境目標として独自に定めることを求めています。当社は2022年度(令和4年度)を基準に、4年間の中期目標を定めて環境負荷低減に取り組んでいます。

項目	単位	2022年度実績 (基準年度)	目 標				
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
二酸化炭素排出量 (増減)	kg-co2	7,901,777	7,741,353 -2%	7,660,202 -3%	7,581,452 -4%	7,502,702 -5%	
電力使用量 (増減)	kWh	4,720,979	4,626,559 -2%	4,579,350 -3%	4,532,140 -4%	4,484,930 -5%	
化石燃料	ガソリン使用量 (増減)	L	675,722	655,450 -3%	648,693 -4%	641,936 -5%	635,179 -6%
	軽油使用量 (増減)	L	408,451	404,366 -1%	400,282 -2%	396,197 -3%	392,113 -4%
	灯油使用量 (増減)	L	1,054,812	1,044,264 -1%	1,033,716 -2%	1,023,168 -3%	1,012,620 -4%
	重油使用量 (増減)	L	9,830	885 -91%	0 -100%	0 -100%	0 -100%
	都市ガス使用量 (増減)	m ³	24,315.7	23,829 -2%	23,586 -3%	23,343 -4%	23,100 -5%
	LPガス使用量 (増減)	m ³	12,251.3	12,006 -2%	11,884 -3%	11,761 -4%	11,639 -5%
	廃棄物排出量 (増減)	t	1,305.3	1,279 -2%	1,266 -3%	1,253 -4%	1,240 -5%
水使用量 (増減)	m ³	30,429	29,820 -2%	29,516 -3%	29,212 -4%	28,908 -5%	
事業活動	新車+軽下取率	%	—	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%
	点検実施率 (実施台数/対象台数)	%	49.2%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%

※電気使用CO2換算係数 王子伊藤忠エネクス電力 0.525(2022年度基準)を使用。

★ 二酸化炭素排出量の計算方法

電気や化石燃料、都市・LPガスは項目毎に二酸化炭素の排出換算係数が定められており、使用量×排出換算係数＝二酸化炭素排出量となる。

★ 二酸化炭素以外にも環境に係る様々な目標を設定

自動車整備による産業廃棄物排出量や洗車作業などによる水使用量も、環境への影響が大きいことから目標として定める。また、車両下取による再販によってリサイクル循環を進め、環境負荷低減に貢献すること、定期的なオイル交換などの点検整備によって”燃費改善＝省エネ”が期待されることから、広い意味で地球環境へ貢献すると考え、当社の事業目標を設定する。

(2) 環境経営計画

①環境負荷の削減

LED照明の順次導入 目標…全体導入 100%

②エコ整備(パックdeメンテ)の拡販

目標…パックdeメンテ付帯率 新車販売の70%

各種点検とエンジンオイル交換、車検などのメンテナンスをパッケージ化した商品である”パックdeメンテ”の新車への付帯率向上に取り組み、車の本来の燃費と安全性能を発揮できるよう、点検入庫を促進する。

③保険募集の電子計上率の向上

目標…電子計上率 80%

ペーパーレス化の推進、お客様のわかりやすさの向上、スタッフの作業工数削減に取り組む。

④化学物質の使用

- ・作業ミス・外部への流出を防ぐための環境教育による意識の向上を図る。
- ・個人別に化学物質使用作業時間表を作成し保管する。
- ・特定化学物質の含有率の低い材料へ移行する。

⑤環境教育の実施

- ・教育計画に基づく社員教育の実施。EA21推進事務局スタッフによる店舗訪問と指導。
- ・年1回、全店それぞれ設定したシチュエーションで緊急事態訓練を実施

4. 今年度の実績と評価

今期は4年間の中期目標の3年目でした。

全社では以下の通り、二酸化炭素の排出量が基準年度と比較して“-4.9%”となり、目標としていた-4%を上回る結果を達成しました。

評価基準凡例	
◎	目標値以上の削減実現
○	削減したものの目標以下
△	前年比5%未満の増加
×	前年比5%以上の増加

項目	単位	2022年度実績 (基準年度)	2025年度			
			目標	実績	評価	
二酸化炭素排出量 (増減)	kg-co2	7,901,777	7,581,452 -4%	7,516,257 -4.9%	◎	
電力使用量 (増減)	kWh	4,720,979	4,532,140 -4%	4,671,972 -1.0%	○	
化石燃料	ガソリン使用量 (増減)	L	675,722 -5%	557,695 -17.5%	◎	
	軽油使用量 (増減)	L	408,451 -3%	368,499 -9.8%	◎	
	灯油使用量 (増減)	L	1,054,812 -3%	1,071,160 1.5%	△	
	重油使用量 (増減)	L	9,830 -100%	0 -100.0%	◎	
	都市ガス使用量 (増減)	m ³	24,315.7 -4%	28,792.8 18.4%	×	
	LPガス使用量 (増減)	m ³	12,251.3 -4%	11,532.4 -5.9%	◎	
廃棄物排出量 (増減)	t	1,305.3 -4%	1,253.1 -11.3%	◎		
水使用量 (増減)	m ³	30,429 -4%	29,212 -4%	◎		
事業活動	新車+軽下取率	%	-	80.0%	54.7%	未達成
	点検実施率 (実施台数/対象台数)	%	49.2%	50.0%	49.8%	未達成
実績						
化学物質使用量	PRTRの報告に基づき、使用塗料メーカーの出荷実績と部品からのLLCの出荷実績を基に化学物質の使用量と、水性塗料への促進状況の把握。					
環境教育の実施	EA21推進事務局スタッフによる店舗訪問と教育を計画通りに行い、随時店舗への指導と店舗でのリスクアセスメントの実施方法等指導					

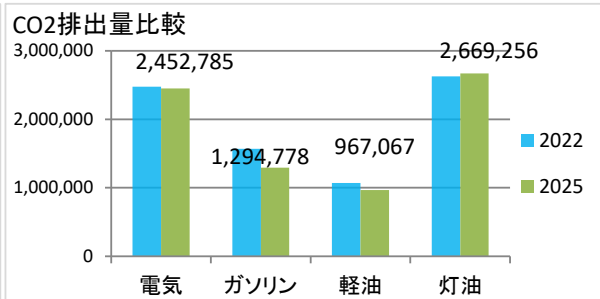
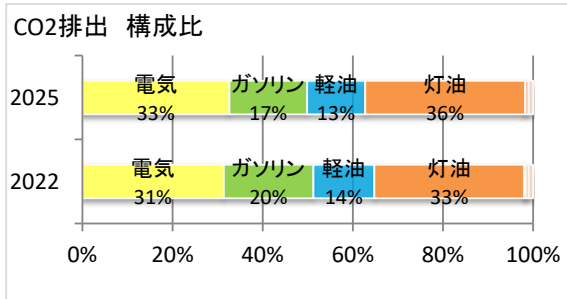
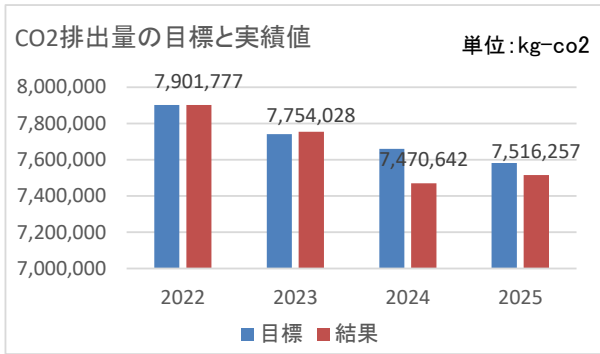
※電気使用によるCO2排出量については、王子伊藤忠エネクス電力を使用。
換算係数0.525(2022年度基準)を使用。

◇ 二酸化炭素排出量の削減

【削減目標】 -4.0%

【実績】 -4.9%

CO2排出量は目標以上の削減をすることができました。新築店舗では、大型化により灯油や電気の使用量が増加してしまう中で、全体でこれだけの削減を達成できたことは、評価できる点です。

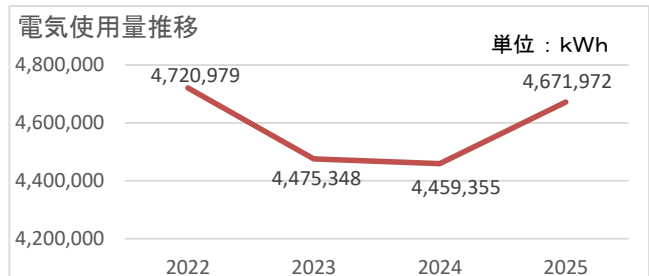


◇ 電力使用量の削減

【削減目標】 -4.0%

【実績】 -1.0%

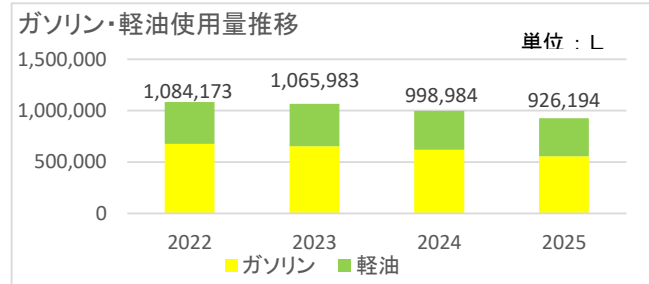
新たに3店舗で、LEDを導入しました。店舗全体でのLED設置率はこれで80%になります。目標-3.0%に対し、実績が-1.0%と、目標に届きませんでした。



◇ ガソリン・軽油使用量の削減

ガソリン	軽油
【削減目標】 -5.0%	【削減目標】 -3.0%
【実績】 -17.5%	【実績】 -9.8%

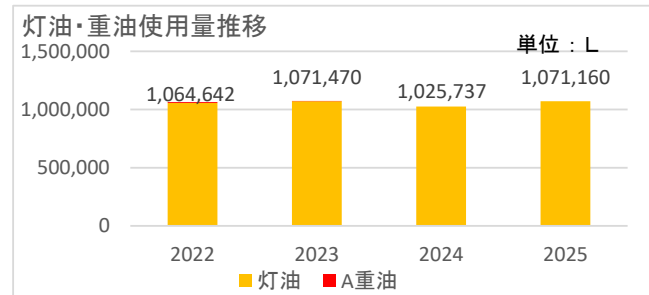
ガソリン・軽油ともに目標以上の削減を達成しました。合計すると-14.6%の削減です。



◇ 灯油・重油使用量の削減

灯油	重油
【削減目標】 -3.0%	【削減目標】 -100.0%
【実績】 +1.5%	【実績】 -100.0%

2023年4月に重油使用を終了しました。灯油の使用量は、本年ではわずかに増加してしまいました。



◇ 都市ガス・LPガス使用量の削減

LPガスは目標以上の削減をすることができた一方で、都市ガスは増加してしまいました。近年の猛暑の影響で、エアコンを使用する機会が増えていることが原因だと考えられますが、スタッフの節約意識を高めることから、削減につなげていきたいです。

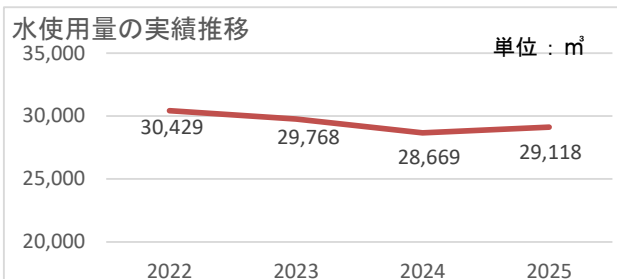
都市ガス	LPガス
【削減目標】 -4.0%	【削減目標】 -4.0%
【実績】 +18.4%	【実績】 -5.9%

◇ 水使用量の削減

【削減目標】 -4.0%

【実績】 -4.3%

水使用量は昨年よりは増加してしまいましたが、目標達成となりました。自動洗車機の設置等、より節水に取り組んでいきます。

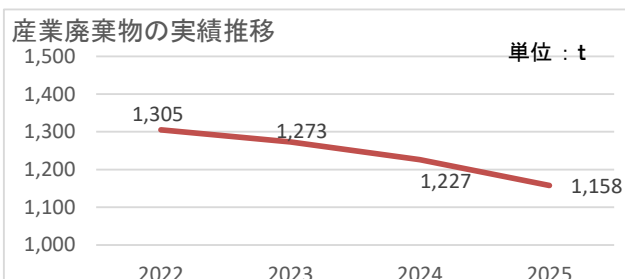


◇ 産業廃棄物排出量の削減

【削減目標】 -4.0%

【実績】 -11.3%

産業廃棄物排出量は昨年に続き削減し、目標も達成できました。2023年度より、電子での産廃管理も導入しました。



◇ 事業分野(函館地区店舗を含む)

新車+軽下取率

【目標】 80.0%

【実績】 60.2%

点検実施率

【目標】 50.0%

【実績】 48.1%

パックdeメンテ新規加入率

【目標】 70.0%

【実績】 60.6%

保険募集電子計上率

【目標】 80.0%

【実績】 77.2%

中古車下取率

【目標】 60.0%

【実績】 47.6%

本社一般ごみ削減率

【目標】 -65.0%

【実績】 -59.0%

エコタイヤ拡販

【目標】 60,000本

【実績】 47,057本

2023年度から新たに下取率を目標に設定しました。目標達成とはなりませんでした。今後も継続して取り組んでいきます。点検実施率は目標を達成することができませんでした。車両点検による環境・安全性能向上のメリットを今後もお客様に訴求し、さらなる入庫促進に努めます。

◇ 環境経営方針の進捗実績(函館地区店舗を含む)

・リサイクル排出の促進

新品バンパー入荷5,173本に対して、メーカーに廃バンパー1,606本返却リサイクル 31.0%

・LED照明設備の順次導入

新たに3か所に導入。また、函館地区の3店舗で導入。併せて建物全体LED化 77.0%

・水性塗料の導入促進

板金併設店21店舗中10店舗で、一部導入を含み 61.9%

◇ 社会貢献活動

- ・自販連札幌支部の取り組みである交通安全「人の波運動」に参加。
- ・中学、高校、大学からのインターンシップ受け入れ。
- ・当社自動車整備工場(菊水研修センター)にて、近隣小学校の生活科の授業の見学を受け入れ。
- ・帯広店が中札内村「総合防災訓練」に参加。



◇ 環境への取り組み

「サステオ」の導入～脱炭素社会に向けて～

北海道マツダは「持続可能な社会の実現」に向けた取り組みの一環として、軽油にHVO51%を混合した次世代バイオディーゼル燃料である株式会社ユーグレナさまの「サステオ」を導入しました。

次世代バイオディーゼル燃料とは

主に植物（バイオマス）を原料に製造され、燃焼段階ではCO₂を排出しますが、原料の植物が光合成によりCO₂を吸収するため、燃料使用時のCO₂は排出量が実質的に±0となります。

	分子構造	品質	特徴(メリット/デメリット)
従来型バイオディーゼル	FAME 脂肪酸メチルエステル	国内B5規格に準拠 ※市販軽油との混合は 品質向上9%まで	・酸化腐食を早める ・貯蔵安定性が低い ・寒冷地での使用は不向き
次世代バイオディーゼル	HVO 炭化水素油	JIS/品確法において 国内軽油規格に合致	・既存設備への影響なし ・貯蔵安定性に優れている ・混合率次第で最大100%脱炭素可能

石油同等の性能まで精製されており、既存のインフラのまま脱炭素が可能



札幌苗穂店に設置されている

「サステオ」の簡易給油機

◇「サステオ」の導入例と主な活動

▶ 「マツダファン・エンデュランス(マツ耐)」参戦



MAZDAオール北海道ファンフェスタ2025IN十勝スピードウェイの「マツダファン・エンデュランス(マツ耐)」に参戦しました。
バイオディーゼル燃料を使用した迫力あるレース仕様のCX-5です。

▶ 北海道マラソン2025 先導車



北海道マラソン2025では、オフィシャルビークルパートナーとして、バイオディーゼル燃料を採用したCX-80が先導車として走りました。

▶ Japan Mobility Show Sapporo 2026



Japan Mobility Show Sapporo2026では、バイオディーゼル燃料を採用した2台を展示し、北海道マツダが取り組む環境活動の情報発信をおこないました。

5. 次年度の目標

(1) 次年度の環境経営目標

次年度(2026年度)からは新たに、函館地区6事業所を追加した2025年度実績を基準として定めた3年間の中期目標に向けて活動していきます。

項目	単位	2025年度実績 (基準年度)	目標			
			2026年度	2027年度	2028年度	
二酸化炭素排出量 (増減)	kg-co2	7,505,420	7,360,282 -2%	7,285,225 -3%	7,210,171 -4%	
電力使用量 (増減)	kWh	4,984,148	4,884,465 -2%	4,834,624 -3%	4,784,782 -4%	
化石燃料	ガソリン使用量 (増減)	L	585,374	567,813 -3%	561,959 -4%	556,105 -5%
	軽油使用量 (増減)	L	394,994	383,144 -3%	379,194 -4%	375,244 -5%
	灯油使用量 (増減)	L	1,122,086	1,110,865 -1%	1,099,644 -2%	1,088,423 -3%
	都市ガス使用量 (増減)	m ³	45,711.9	45,255.0 -1%	44,798.0 -2%	44,341.0 -3%
	LPガス使用量 (増減)	m ³	27,137.5	26,595.0 -2%	26,323.0 -3%	26,052.0 -4%
廃棄物排出量 (増減)	t	1,272	1,247 -2%	1,234 -3%	1,221 -4%	
水使用量 (増減)	m ³	32,223	31,579 -2%	31,256 -3%	30,934 -4%	
事業活動	新車+軽下取率	%	55.6%	80.0%	80.0%	80.0%
	点検実施率 (実施台数/対象台数)	%	48.3%	50.0%	50.0%	50.0%

※電気使用CO2換算係数

函館地区6事業所:北海道電力(株) 0.526(2025年度基準)を使用。

他54事業所:王子伊藤忠エネクス電力販売(株) 0.422(2025年度基準)を使用。

※重油は今後発生しないため、項目から削除。

(2) 次年度の環境経営計画

①環境負荷の削減

全社LED設置率 100%

②エコ整備(パックdeメンテ)の拡販

パックdeメンテ付帯率 新車販売の70%

③保険募集の電子計上率の向上

電子計上率 80%

④化学物質の使用

- ・取り扱いに当たり、作業ミスによるロスや、外部への流出を防止するため環境教育を実施。
- ・店舗スタッフへの聞き取りにより意識と実情の確認。
- ・特定化学物質の含有量の低い材料へ移行。

⑤環境教育の実施

- ・教育計画に基づく社員教育の実施。EA21推進事務局スタッフによる店舗訪問と指導。
- ・年1回、全店それぞれ設定したシチュエーションで緊急事態訓練を実施。

その他目標

タイヤの拡販 エコタイヤ年間60,000本

本社・札幌店一般ごみ削減 2019(圧縮機導入)年度比 -65%

6. 環境経営関連法規

(1) 環境関連法規の遵守状況確認

遵守確認日：令和8年3月31日

EA21環境推進事務局員による店舗の巡回を行い、該当する環境関連法規(下表)について法令違反の有無を確認。

(2) 環境関連法規遵守要求事項

環境関連法規	要求事項	確認結果
廃棄物処理法	マニフェスト交付状況の年度報告、マニフェストの適正運用管理、委託基準の遵守、保管基準の遵守、適正な委託契約	○
自動車リサイクル法	業者登録、適正処理	○
大気汚染防止法	特定施設における規制基準の遵守	○
悪臭防止法	規制基準の遵守	○
水質汚濁防止法	特定施設の届出	○
下水道法	排水設備の設置、特定施設の届出、規制基準の遵守	○
騒音規制法	特定施設の届出、規制基準の遵守	○
振動規制法	特定施設の届出、規制基準の遵守	○
消防法(火災予防条例)	危険物規定数量に関する規定の遵守、消防設備点検・報告の実施、防火管理者の設置	○
北海道循環型社会形成の推進に関する条例	産廃に関する規制基準の遵守	○
フロンガス排出抑制法	フロン類使用における漏えい防止管理の遵守	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄物における、フロン類回収と再生資源利用の遵守	○

(3) 違反・訴訟の有無

環境関連法規について法令違反は無く、関係当局より違反等の指摘もありませんでした。

7. 代表者による全体評価

2025年度は、二酸化炭素の削減目標が▲4.0%に対して▲4.9%と目標を上回る成果を達成しました。特に、車両燃料においては大幅な削減達成となりました。一方で、電気使用量は目標未達、灯油および都市ガス使用量は増加しました。これらは、近年の気候変動の影響が要因のひとつとして考えられます。今後は、空調温度の適正管理の徹底や節電への意識改革など、日常的な運用改善を含めた取り組みを強化してまいります。

北海道は広大な土地と多様な再生可能エネルギー資源に恵まれており、そのポテンシャルの高さから日本最大の自然供給基地となることが期待されています。当社は、全道をカバーする企業として、そういった社会的動向の状況を踏まえながら、今後も環境負荷の低減に努めて参ります。

◎ なお、環境経営方針は2025年11月に改訂し、環境目標・活動計画・実施体制は2026年度より見直しを行っています。今後は新たな方針のもと、取り組みのさらなる推進を図ってまいります。

北海道マツダ販売 株式会社

代表取締役社長 横井 隆